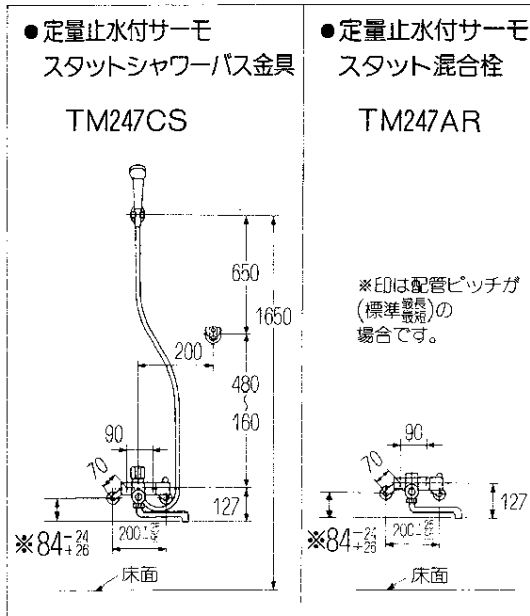


# ジョイシリーズ“自動みずとめ” サーモスタット

## シャワーバス金具・混合栓 取付説明書

### 完成図



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

### 使用条件

#### 1. 使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組み合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧……(下表参照)  
最高圧力………0.59MPa(6kgf/cm<sup>2</sup>)

器具入口部における最低必要水圧 (MPa:kgf/cm<sup>2</sup>)

給湯機タイプと号数		スプレー	マッサージ
能力手動タイプ	12号	A+0.11(1.1)	A+0.147(1.5)
比例制御タイプ	TOTO カスタム 16号	0.08(0.8)	0.09(0.9)
	TOTO トリコン 16号	0.07(0.7)	0.08(0.8)
	TOTO トリコン 20号	0.08(0.8)	0.09(0.9)
	TOTO トリコン 24号		
	TOTO ・トリコン アクティ	0.06(0.6)	0.07(0.7)
	TOTO ・コンタクト スーパーアクティ		
TOTO ・アクティ 32号			
TOTO ハイトリコン 21号	0.06(0.6)	0.07(0.7)	
TOTO ハイトリコン 24号			
TOTO コマンド 16号	0.06(0.6)	0.07(0.7)	
TOTO コマンド 24号			
TOTO ハイコマンド 21号	0.06(0.6)	0.07(0.7)	
TOTO ハイコマンド 24号			

注)TOTOカスタムシリーズでは、給湯機の温度を60℃にした場合、表中の数値より0.02MPa(0.2kgf/cm<sup>2</sup>)多く必要になります。表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。(比例制御タイプにはこの数値が含まれていません)

#### (設定条件)

- 切替ハンドルは全開
- 給湯配管長さ5m

- 給湯機温度調節は最高温に設定
  - 夏季水温25℃ ●冬季水温5℃
  - シャワー吐水温度42℃
- a) 能力手動タイプの場合
- 給湯機が着火する下限の圧力とする。
  - 季節は水温の高い夏季とする。
  - 水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。
- b) 比例制御タイプの場合
- 8ℓ/min(マッサージシャワーは10ℓ/min)の吐水流量を確保するのに必要な圧力とする。
  - 季節は水温の低い冬季とする。
- (2)貯湯式給湯機と組み合わせる場合
- 給水・給湯圧力 { 最低必要水圧0.05MPa(0.5kgf/cm<sup>2</sup>)  
最高圧力………0.59MPa(6kgf/cm<sup>2</sup>)
- 給水圧力は給湯圧力より必ず高くするが、同圧になるようにしてください。給水圧力が0.59MPa(6kgf/cm<sup>2</sup>)を超える場合、市販の減圧弁で0.196MPa(2kgf/cm<sup>2</sup>)程度に減圧してください。
2. 給湯温度は使用する温度より10℃以上高くしてください。
- ただし、約70℃以上の温水は出ないようにしています。

3. 給湯に蒸気を使用しないでください。

4. 湯・水を逆配管しないでください。

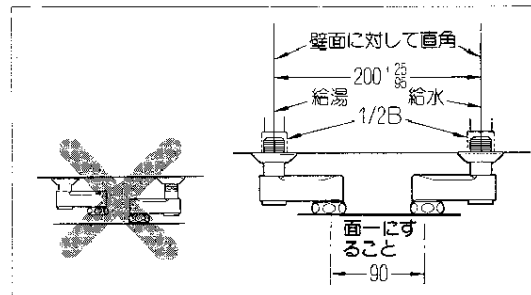
なお、給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

### 器具の取付け

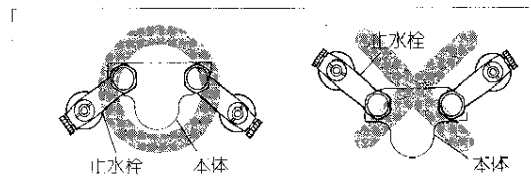
#### 1. 給水管内の清掃

器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

#### 2. 止水栓の取付け



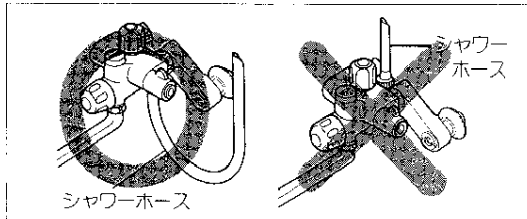
※止水栓の取付位置が本体よりも上になると寒冷地用の場合は水抜きができなくなります。



### 3. シャワーホースの取付け（シャワーバス金具の場合）

- 本体を止水栓に接続する前にシャワーホースを本体に取付けてください。
- シャワーホースは止水栓の下から取り出してください。

寒冷地用の場合は止水栓の上から取り出すと水抜きができなくなります。



## 温度調節

工場で温度調節をしていますが取付現場の圧力状態などによって、温度調節ハンドルのダイヤル目盛どりの吐水温度にならない場合があります。

その場合は次の要領で調節してください。

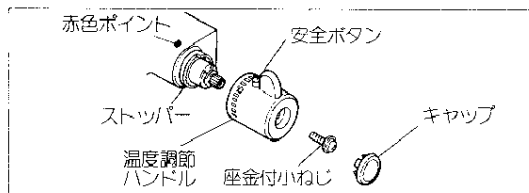
なお、調節する前に次のことを確かめてください。

- 止水栓が全開になっていること。
- ストレーナのごみづまりがないこと。
- 十分な温度（使用する温度より10℃以上）のお湯がきていること。

#### 〈調節要領〉

(1) カランより吐水させてダイヤル目盛に関係なく40℃の湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回してください。（高温側へ回すときは安全ボタンを押してください。）

(2) 温度調節ハンドルが回らないように注意してキャップ、小ねじを外し、温度調節ハンドルを抜きとってください。（ストッパーが外れたときは分解と点検の項に示す位置に正しくはめてください。）



(3) ダイヤル目盛の“40”の文字と赤色ポイントを合わせて温度調節ハンドルをはめ、小ねじで固定しキャップをはめてください。

## 最大吐水量の調節

この器具は目盛300(約300ℓ)まで吐水量を設定できますが、浴槽の適量以上に設定ハンドルが回ら

ないように最大吐水量を調節することができます。お客様と相談のうえ、「ご愛用のしおり」の最大吐水量の調節方法(12ページ)を参照して、調節してください。

## ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水流量が少なくなったり水又は熱湯しか出なくなるほど十分な機能が発揮されなくなります。器具取付後は、必ずストレーナを掃除してください。

また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指導ください。

## お手入れ

めつきされた器具がいつまでも美しさを保つように、お客様に次のお手入れ方法をご指導ください。

- ふだんからこまめに柔らかな布でふき、ときどきミシン油やカーワックスなどをしみこませた布でみがくこと。ただし、樹脂部(ハンドル・シャワーヘッドなど)に付着すると光沢を失うので、付着しないよう十分注意すること。
- クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
- 酸性洗剤はめつきを侵しますので、使用しないこと。もし、タイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分に水洗いすること。

## 寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて同梱の水抜方法ラベルの要領で水抜きをしておいてください。またお客様にも水抜方法をご指導ください。

#### 〈水抜手順〉

- (1) 設定ハンドルを目盛120ぐらいに回す。
- (2) 本体の水抜コックを全て開く。
- (3) 温度調節ハンドルを“H”に合わせ、カラン及び水抜コックから水が出なくなってから、ハンドルを“C”側いっぱい回す。
  - シャワーバス金具の場合はさらに次の操作をしてください。
- (4) シャワーハンドルを開く。
- (5) ホース根元の水抜コックを開く。
- (6) ホース内の水を抜き、シャワーヘッドを振って中の水を抜いてから床に置く。

# 分解と点検

取付後、万一故障などで分解するときは、次の要領で行ってください。

**寒冷地用**  
止めピン  
水抜コック

湯側・水側  
2カ所  
止めピン  
水抜コック

止めピン  
水抜コック  
シャワーバス  
金具の場合  
は右側についています。

**シャワーバス  
金具の場合**  
水抜コック  
一般用 寒冷地用

1 止水栓は全開  
されているか

2 こみづ  
まりは  
ないか

3 シートに傷・こ  
みかみはないか

4 シートパッキンに傷・こみ  
かみはないか

5 シートに傷・こみ  
かみはないか

6 シートパッキンに傷・こみかみはないか

7 小穴がつまっていないか  
※設定ハンドルを「止」に  
合わせて、バルブを組み  
込むこと。

8 水側・湯側シート部に  
傷・こみづまりはないか

9 温度調節は  
よいか

10 エLEMENTのピン  
のおさまりはよいか  
※ピンは容易に抜けるの  
で紛失しないこと

ふた  
ばね  
リリース  
バルブ  
シャワー  
ハンドル  
パッキン  
逆止弁  
ふた  
止水栓  
ストレーナ  
安全ボタン  
温度調節ハンドル  
機能部  
設定ハンドル  
ストッパー  
赤色  
ポイント  
座金付小ねじ  
キャップ  
カラ

現象	点検項目	
吐水流量が少ない	1・2	
高温しが出ない	1・2・8・9・10	
低温しが出ない	1・2・8・9	
温度自盛どおりのお湯が出ない	1・2・8・9・10	
水が止まらない	シャワーハンドル側	3・4
	設定ハンドル側	5・6・7

**ストッパーの位置**  
切欠きと赤色ポイントに合わせてはめ込む。  
切欠き  
ストッパー